

# commonconcern

A PUBLICATION OF THE WORLD YWCA / PUBLICATION DE LA YWCA MONDIALE / PUBLICACIÓN DE LA YWCA MUNDIAL

## IN THIS ISSUE

### YWCA SETTING THE AGENDA

From Theory to Practice  
Co-responsibility for development

### YOUNG WOMEN CLAIMING THEIR RIGHTS

Shared and intergenerational leadership that  
makes a strong movement

### BEYOND 2015

The World YWCA - "A Pearl of Great Prize"

## DANS CE NUMÉRO

### L'AGENDA DE LA YWCA

De la théorie à la pratique  
Co-responsabilité en matière de développement

### LES JEUNES FEMMES REVENDIQUENT LEURS DROITS

Le leadership partagé et intergénérationnel crée un  
mouvement fort

### AU-DELÀ DE 2015

La YWCA Mondiale - « une perle rare »

## EN ESTE NÚMERO

### LA AGENDA DE LA YWCA

De la Teoría a la Práctica  
Corresponsabilidad para el desarrollo

### MUJERES JÓVENES RECLAMAN SUS DERECHOS

Un liderazgo compartido e intergeneracional forja un  
movimiento fuerte.

### DESPUÉS DE 2015

La YWCA Mundial - "Una Perla de Gran Precio"

## 特集： 世代を超えて分かち合うリーダーシップ 2035年に向けてのビジョン構築



World YWCA



## 目次

---

はじめに	1
YWCA の課題	3
理論から実践へ	
発展のための共同責任	7
ビジョンの共有	9
人権に基づくアプローチにおける信仰とジェンダーの公正	
地域とつながる	13
「変革への力基金」 生き方を変え、コミュニティを構築する	
会員増加プロジェクト	15
信頼性を高めるレバノン YWCA	16
太平洋地域若い女性のリーダーシップ連合	18
世界とつながる	20
運動の構築と国際的な課題の策定	
権利を主張する若い女性たち	22
運動を強化する世代間でのリーダーシップの分かち合い	
2015 年以降への展望	27
世界 YWCA「貴重な宝」	
キャンペーン	30
ポスト 2015 年開発アジェンダ 次は何をすべきでしょうか	

---

### 英文発行：世界 YWCA

会長：デボラ・トーマス・オースティン

総幹事：ニャラザイ・グンボンズバンダ

翻訳：セリーヌ・ブワソン、マリア・ブランカ・フエレ

デザイン：ルーシー・イローエンヨシ、NeatWorks, Inc

# はじめに

世界 YWCA 総幹事  
ニャラザイ・グンボンズバンダ



## 持続可能な運動を構築する

**Y**WCA は単なる組織ではなく、ひとつの運動として知られています。エネルギー・行動・努力・強い決意など、目標を達成するための一貫した流れがあるからです。世界 YWCA の運動構築のあり方は、私たちの目的に定義されています。すなわち、「すべての人々にとっての正義・平和・健康・人間の尊厳・自由・持続可能な環境を実現するため、世界中の女性と少女たちの力を結集し、そのリーダーシップを養成する」ことです。

私たちは、多様性の中にあってこの同じメッセージを共有し、変革を起こすためのアジェンダに大きく影響を与えるために必要な女性たちの力を結集することに、活動の重点を置いています。それにより、女性・若い女性・少女が自分自身の権利を知り、その権利を主張できるようになります。私たちは、このような活動を毎日地域レベル・国家レベル・国際レベルで実行しています。運動構築の方法は一つとは限りません。

2015 年世界 YWCA 総会に向けて、世界 YWCA は「2035 年に向けたビジョン構築(Envisioning 2035)」という大胆で独創的なプロセスを開始しました。「2035 年に向けたビジョン構築」は 20 年間の行動

計画であり、私たちの運動の持つ影響力と運動の独自性を明らかにしたものです。このプロセスの一環として YWCA 運動のメンバーとパートナー団体からの代表約 30 人が 2014 年 5 月にフィンランドのヘルシンキに集まり、運動の持続可能性・独自性・運動構築について討議しました。昨年、台北市で開催された「女性の権利とリーダーシップ」会議での話し合いを踏まえたこの円卓会議は、パートナー団体代表とメンバーが戦略的思考に集中して討論するための有益な場でした。この話し合いにより、現在団体の内外を取り巻いている状況と、YWCA 運動の持つ将来の可能性に対する共通の理解が生まれました。

世界には深刻な分裂があり、将来のため、YWCA 運動はそれを乗り越えていく必要があります。世界では、技術が進歩し、地域を超えて人間関係、知識・資源・スキルの伝達や移転のされ方などが大きく変わっています。社会的起業家精神が主張を強め、サービスの提供と価値の創出における国家の役割を変えていっています。男性と女性・人と人・階層間での不平等が、地域内でも、また地域間でも拡大している中に、私たちは暮らし続けています。私たちの住む世界では、紛争や極貧からの救済と正義が依然として必要です。信仰に基づくコ

コミュニティの役割が高く評価され認められています  
が、一方では保守主義の台頭が見られます。

世界各地に広がり、それぞれの場所で地域に根  
差し、進取の気象をもってサービス提供とアドボカ  
シー活動の両方を行っているYWCA運動は、世界  
中の女性と少女の権利と幸福のために活動してい  
ます。世界が国連を通して「北京+20」<sup>1</sup>公約を見直  
し、新たな開発アジェンダを定義しようとしている今  
こそ、世界YWCAの「2035 年に向けたビジョン構築」  
はまさに時宜を得たものです。YWCA運動構築へ  
の投資により、女性と少女のリーダーシップを通し  
て、サービスの提供とコミュニティにおける政府公  
約の監視が速やかにできるようになります。

2015年世界YWCA総会に向けて、  
世界YWCAは「2035年に向けたビ  
ジョン構築(Envisioning 2035)」とい  
う大胆で独創的なプロセスを開始  
しました。

<sup>1</sup> 2015年は北京行動綱領(1995年)から20年目の見直しの年。

# YWCA の課題

## 理論から実践へ

世界 YWCA プログラム担当(加盟 YWCA 支援担当)  
カテリーナ・レンプ



**過** 去 20 年にわたって、YWCA は、人権に基づくアプローチや世代を超えたリーダーシップに重点を置くといった新たな取り組みを行い、改革を実行することで、運動を強化・発展させてきました。これらの変革は主として、グローバル化の力学・コミュニケーションの形態・仕事の仕方が大きく変化している世界の現況に対応して、成し遂げられました。

数年前、まだチリ YWCA で活動していた頃に「YWCA における適切な組織運営と説明責任の基準(SGMA: Standards of Good Management and Accountability)」を受け取ったことを思い出します。まさに組織運営のバイブルを見つけたと感じました。SGMA を読んで、YWCA のように 150 年にわたって存続する運動体が今、他の活動組織や社会運動が急速に成長している時代に意義を持ち続けるには、革新を続け、専門性を高めることがいかに重要であるかを実感しました。また、組織の規模や資金や人材がどうであれ、YWCA が適切な運営方法を備え、さまざまなプロセスや意志決定が民主的かつ誰もが参加できる、総意に基づいた運動体であるためには、ルールや基準を設けることが大事だと理解しました。SGMA を適用していくにつれ、SGMA は自己評価の道具にとどまらず、SGMA を普段の活動にいかにより最適な形で取り入れるかを考える際に、検討・分析・計画・実行する手段で

もあることが分かりました。

この数十年、社会の正義や平等・発展のために活動する個人や組織の重点や方針が変化したことが、明確になってきました。現在こうした活動では、時間のほとんどを、国や地域また国際レベルのアドボカシーを通じた権利の保護や推進、そして人びとの意識を高め、必要な社会変革を促進するキャンペーンに充てています。

YWCA が運動体として発足して以来、基本的人権を保障するために、特に女性や若者および子ども、そしてより広いコミュニティの基本的人権を保障するために、大半の期間、政府の役割を引き受けてきたことはよく承知しています。しかし、政府の役割を果たすのは、運動体としての YWCA の責務ではありません。YWCA の活動は、政府がすべての人に分け隔てなく権利を保障する義務を果たすよう要求することに主眼を置かなくてはなりません。とはいえ、こうしたアプローチを理解し、実行するのは、多くの加盟 YWCA にとってたやすいことではありませんでした。なぜなら、アドボカシーというものは政治や支持政党と結びつけて考えられがちなので、YWCA はアドボカシーに関わるべきではないと、多くの加盟 YWCA は今まで考えてきたからです。コミュニティ活動を基本とする運動体として、YWCA は、政策によって世界中の女性や若者および少女たちのニーズや権利を確実に実現するよう、政治家に対して言うべきことが多くあります。

## 他団体協働(パートナーシップ)

地域や国また国際レベルのパートナーシップによる活動も、近年の変革の主たる要因です。YWCA では、各コミュニティで求められている変革を強化・拡大するためには、YWCA だけではなく外部の団体ともつながる必要があると理解しています。こうした連携は、YWCA と同じような目的を持つ団体との協働のみに基づいていけばよいというわけではありません。目的の異なる団体とも連携を結ばなくてはなりませんし、こうした団体との間に共通項を見出さなくてはなりません。つまり、すべての人の基本的な人権の尊重と擁護という共通項です。YWCA のミッションに明記されているとおり、あらゆるレベルで多様性が確保され、すべての人に対して開かれていること、あらゆる国民・民族の連帯、これらが、連携相手を探す際のキーワードです。誰もが同じ世界観を持つことは不可能であること、また文化の豊かさやさまざまなものの見方があるおかげで、世界がこの上なく素晴らしく多様になっていることを、私たちは理解しなくてはなりません。

## 世代を超えて分かち合うリーダーシップ

YWCA 運動にさまざまな世代が関わるのが重要であることを認識している各加盟 YWCA は、幅広い層の会員が集まるよう努力してきました。しかしまだ一部では、YWCA とは主に年長の成人女性がボランティアで奉仕する団体であると思われており、若い女性の会員やリーダーが不足しています。世界 YWCA は、若い女性の参画を促すために、YWCA の意思決定に関わるすべてのポストの内、25 パーセントに 30 歳以下の女性会員が就くことを義務づけました。そのかいあって、この数年、若い女性のリーダーシップが進んでいます。

しかしながら、多くのコミュニティで人々が描く若い女性のイメージは、彼女たちのリーダーシップや革新、創造性を肯定するものではありません。若い女性は、

目の届くところにいて静かにしていなければならない子どものような存在と見なされています。その上、年が若いということは、つまり経験やリーダーシップのスキルに欠けていると考えられるのが常です。こうした考え方は、年齢に応じて期待される行動様式を規定している文化的規範や慣習によって強化され、生活やコミュニティで日々厳しい決断をしている若い女性たちをさらに疎外します。

権力とは扱いが最も困難で厄介な問題の一つだ、と認識することが重要です。ですから、リーダーシップの概念が、多くの文化で権力やさまざまに形を変えた権力と結びついていることを、私たちは理解しなくてはなりません。リーダーシップの概念と権力について、一人ひとりが、また皆でよく考えて、あらゆる年齢層の女性の声が聴かれ、尊重され、世代を超えて共有されるリーダーシップを効果的に実行しなくてはなりません。

運動体として発展するうえで YWCA は今岐路にあり、ここでこの数年私たちが理論化してきたことを基本に行動すべきだと感じています。もしも私たちが、主張していることを人生のあらゆる局面で実践できなければ、望ましい社会変革の実現は非常に困難です。

今年、発足 158 周年を迎える運動体として、また 2035 年<sup>2</sup>という未来を夢に見、展望する中で、YWCA は大きな一歩を踏み出し、理論を実践に移さなくてはなりません。

<sup>2</sup> YWCA は、「2035 年に向けたビジョン構築(Envisioning 2035)」という 20 年間の行動計画を構築している過程である。

## 他団体との協働(パートナーシップ提携)に至るまでの 12 の段階

期間の長短にかかわらず、団体間のパートナーシップを効果的に運営管理することは重要です。特に大切なのは、パートナーシップを構築し運営する際に、優れた実践例を継続することでしょう。あらゆる協働には、関係を持続するために指針となる原則が欠かせません。こうした原則は、パートナーシップ構築プロセスの一部として策定され、当事者すべてにより同意される必要があります。世界の多くの地域で、協働に効果があると証明されている3つの基本原則とは、公平性、透明性、そして互恵性です。

- **公平性**: 公平性とは、交渉の席における平等な権利であり、単に金銭的価値や知名度では計れない貢献を認めるものです。
- **透明性**: 協働関係においてオープンで正直であることは、信頼を築く上で欠かすことのできないものです。透明性が確保されればこそ、パートナー・寄附者・その他の関係者に対して真の説明責任が果たせます。
- **互恵性**: あらゆるパートナーには貢献が求められており、また、パートナーシップから利益を受ける権利も与えられるべきです。

### 他団体との協働(パートナーシップ提携)に至るまでの 12 の段階

#### ① 課題の精査と目標設定

課題の把握、情報収集、関係者および潜在的な外部の資源提供者との協議、協働の、また協働に向けてのビジョンを構築する。

#### ② パートナーの特定

パートナー候補を選び、適切な場合には参加を確保する。参加への意欲を促し、協力を働きかける。

#### ③ 構築

協働関係を支えることとなる目標や目的、基本原則への同意を通じて、協働関係を構築する。

#### ④ 計画立案

活動計画を練り、プロジェクト全体の概要を描き始める。

#### ⑤ 運営管理

中・長期的な協働関係の仕組みと運営管理方法を検討する。

#### ⑥ 資源調達

各パートナー(および支援者)は、現金と現金以外の資源を把握し、結集動員する。

⑦ 実施

資源を確保し、プロジェクトの詳細に同意を得たら、実施プロセスの開始。合意したスケジュールに沿って、(理想的には)具体的な成果物(訳注:イベントなど)を目指して実施する。

⑧ 評価

影響と有効性、結果と成果について評価し、報告。協働が目標を達成できているか。

⑨ 再検討

協働関係の再検討:協働関係がパートナー団体に与える影響は何か。既存のパートナーの撤退、または新規のパートナー参入の時期か。

⑩ 修正

経験を踏まえて、協働関係、プログラム、またはプロジェクトを修正する。

⑪ 制度化

長期の参加と継続性を確保できるよう、適切な体制と仕組みを構築する。

⑫ 持続または終了

協働関係を継続するか終了するか、適切な結論を下す。

注意

以上はあくまでも指針である。実際にはどの協働関係も独自の発展の仕方がある。安定した協働関係を維持し、順調に目標を達成するためには、上記の「段階」のどれもが大切であり、軽視すべきでないことを、意識することが大切である。

出典 「パートナーシップ提携に至るまでの 12 の段階」:ロス・テニスン『パートナーシップ・ツール・ブック』

# 発展のための共同責任

世界 YWCA 副会長  
スーザン・ブレナン



**世**界 YWCA 運動に連なるものとして、あらゆる YWCA は、相互尊重や、健全性、説明責任の遂行などの共通の価値観に従っています。これらの価値観は、世界 YWCA の運営管理方法や、私たちが守る基準、YWCA 間の協働のあり方にも取り入れられています。持続的発展は、グッド・ガバナンスと世界を変革するリーダーシップがなければ成り立ちません。

**私たちはみんな違う船でやって来たかもしれないが、今は運命を共にしている<sup>3</sup>**

それぞれの資源や所在地、大きさと歴史にかかわらず、加盟 YWCA の権利と責任はすべて平等です。世界 YWCA 総会において、加盟 YWCA は平等な議決権を持ち、世界 YWCA 運営委員会は 8 つの地域から代表を選出しています。あらゆる加盟 YWCA は、世界 YWCA への加盟費支払いを含む、加盟条件を満たす必要があります。「YWCA における適切な組織運営と説明責任の基準 (SGMA)」を守ることを約束し、また、画期的な女性のリーダーシップ養成プログラムを支援するための「変革の力」基金を利用することができます。

<sup>3</sup> 訳注: キング牧師のことば

## 一にも二にも説明責任

どの YWCA も、そのメンバー、コミュニティ、パートナーおよび他の YWCA に対して、責任を負っています。

YWCA の名称は、信頼と質の証です。倫理的に行動し、変革をもたらすようなリーダーシップを発揮し、SGMA を全面順守するよう努力することによって、各 YWCA は YWCA 全体の評判を落とさないように尽力しています。

YWCA の価値観と矛盾しないよう、世界 YWCA は加盟 YWCA に対し、ガバナンスを強化・向上し続けるよう支援し、奨励しています。私たちは皆、価値を実現し、気高い理念を守る役割を担っているのです。

## 私たち抜きに私たちのことを決めないで<sup>4</sup>

世界 YWCA と会員は長い間、開発のために草の根的な女性中心のアプローチを採用してきました。2013 年、世界 YWCA はより参加型の、権利に基づくアプローチに特に重点を置いて取り組みました。どの YWCA のプログラムも、女性のニーズと利益を優先し、包括的アプローチを採用したものであること、また、自活を促し依存を生むことを避け、人権を尊重し、パートナーシップを通じて協働を促進することを期待しています。

<sup>4</sup> 訳注: 障がい者権利条約制定のスローガン

## 蜘蛛の網も集まれば、ライオンを縛りあげることだってできる<sup>5</sup>

YWCA 内では、垂直的にも水平的にも、互恵的なパートナーシップを実行しています。これは、価値観を共有し、共通の歴史を持つ YWCA の設立時から続いているものです。効果的なパートナーシップを生むためには、参加者それぞれの貢献を認め、オープンで信頼し合えるコミュニケーションを保ち、そして、あらゆる参加者にとって前向きで変革をもたらす結果となるよう、取り組むことが必要です。1906 年に YWCA の先輩たちが促したように、私たちは「心から協力し合う」べきです。

## あなたとリムジンに乗りたがる人はたくさんいる。でもあなたが本当に必要なのはリムジンが壊れたときに一緒にバスに乗ってくれる人<sup>6</sup>

パートナーシップが破綻しても、現状打破のための好機とみなせば、障害物も、学習、関係の改善、強化のチャンスとなりうるのです。当初の目的を遂行し、直接協力関係にある団体以外にも影響を与えるようなら、また、持続可能で、独自に運営可能で、すべてのパートナーの価値を高めるようであれば、そのパートナーシップは成功していると言えるでしょう。

5 年前に世界 YWCA はこれらの原則を具体化した指針を作成し、2014 年に見直しを行っているところです。より良い世界を目指す変革をもたらすリーダーシップ、という共通のビジョンに向けて協働と協力を強化するためにも、皆さんの考えや経験、情報をお待ちしています。

---

<sup>5</sup> 訳注: エチオピアのことわざ

---

<sup>6</sup> 訳注: オプラ・ウィンフリー

# ビジョンの共有

## 人権に基づくアプローチにおける信仰とジェンダーの公正

ルーテル世界連盟 教会と社会における女性部  
エレン・ノイエフェルト



**集** 団によって受容・共有されている、知識・行動・信念・価値観・象徴の文化体系は、静的なものではなく、とても動的なものです。時として宗教や信仰に基づいた考え方とつながりを持つこれらの文化背景は、人々の考え方や行動に影響を及ぼし、しばしば女性または男性を排除することとして現れます。歴史的に、信仰に基づく団体や教会は、固定化した文化的価値観や信念に基づき、その教えや男性優位の構造を通じて、従属するものとしての女性の物語を創り出し、永続させてきました。

しかし信仰や宗教に関連したさまざまな言説は、ジェンダー平等の議論において、すべての人々を受け入れる公正な関係や構造に基づいた女性と男性の役割の再定義に向けて、指導的役割も果たすことができます。女性に対する暴力を防止し、乗り越えるための教会や教会を中心とする団体の活動は、不正義に抵抗する倫理に基づいており、積極的な役割を果たしている良い事例の一つとなっています。教会の活動や教会役員の仕事、神学について改めて考え直すことは、信仰や宗教への重要なアプローチの本質的な部分であり、暴力が最も頻繁に起こる私的領域へ女性を追いやる宗教と文化間の危険なつながりを解消することになります。

ジェンダーの公正の概念は、信仰に基づく団体や教会において、ジェンダーの主流化やジェンダーの平等を実行する上で重要な点です。この神学的ツールは教会が直面するさまざまな重要な課題を明らかにしました。ジェンダーの公正は、神の姿にかたどられ、お互いに助け合うものとしての男性と女性の尊厳が尊重されることを意味しています。ジェンダーの公正とは、両性が平等になり、バランスの取れた力関係になるということです。また、差別を存続させてきた制度的・文化的・对人的構造の中にある特権や抑圧が根絶されるということです<sup>7</sup>。聖書や神学的見地からも、力関係の作用やメカニズムについて取り組む必要があります。すべての人が招かれるコミュニケーションという神学的概念を、現実的な言葉にする努力をしていく中で、教会の階層的で男性優位な構造に基づいて行われてきたことは、問題視されるべきです。つまり、権力へのアクセス(あるいはアクセスできないこと)または行使(あるいは乱用)といったことです。

<sup>7</sup> 「ルーテル世界連盟ジェンダーの公正に関する政策」(LWF Gender Justice Policy) より引用。  
<http://www.lutheranworld.org/content/resource-lwf-gender-justice-policy>

この運動を起こす中で、これまでとは違う神学が必要とされています。日常生活に深く根ざした神学です。差別され苦しんでいる人々を生き返らせる神学的な言葉、女性と男性にとっての正義の言葉が必要です。

これは神学の公的で預言者的な役割であり、教会が実践することです。それは、現実の生活に意味を

生み出す助けとなります。女性が立ち上がり、自分で歩めるように支援し、尊厳と正義の内に女性と男性が活躍できるようにします。こうした試みの画期的な結果を想定した上で、特権や抑圧的構造を認識し、限界や苦境があってもなお、女性と男性にとって公正なコミュニティを構築するための勇気のある一歩を踏み出します。

# 人権に基づくアプローチを理解するために

**人**権とは、開発の中心であり、すべての人々が生まれながらに持っている尊厳に基づいて、幸福や自由を促進することを目指しています。人権に基づくアプローチ(Human Rights Based Approach, HRBA)は概念的な枠組みで、国際的な人権の基準や原則に基づいています。その目的は、人権を保護・促進し、差別を排し、社会の片隅に追いやられた人々を受け入れることに重点を置いています。HRBA は、YWCA のプログラムやアドボカシー運動を展開する中で、社会的にもっとも弱い立場の女性や少女を対象としたものになるよう促します。また、彼女たちが自分の権利を主張できるよう育成し、政府に対し、関連法や政策を通して女性と少女の権利を実現するよう働きかける上で、YWCA の活動計画が確実に実行されるよう促します。

HRBA は人々が尊厳と平和の内に生きることができる状況を目標に、人々の持つ潜在能力を十分に高め、4つの重要な課題に対応しています。

- ① 誰が取り残されているのでしょうか？HRBA は社会の片隅に追いやられた集団を特定します。
- ② それはなぜでしょうか？HRBA はどの権利が危機的な状況であるかを特定します。
- ③ 誰がこれに対応すべきなのでしょうか？HRBA は、人権の尊重を保障することに責任を負う人々(義務履行者)と権利の保護を必要とする人々(権利保有者)が誰なのかを特定し、その両方を対象とします。
- ④ 行動を起こすために何が必要でしょうか？

## 人権に基づくアプローチによるプロジェクトとは

- 1** 社会の片隅に追いやられた人々や恵まれない境遇におかれた人々を対象にするものです。YWCA は、人権を侵害されるリスクの高い女性や若い女性、少女たちを対象とします。彼女たちは社会の片隅に追いやられ、サービスや機会を利用する際に差別を受けやすいのです。例としては、HIV と共に生きる女性や暴力のサバイバー、障がいをもつ女性、学校に通っていない少女、農山漁村の女性、移住女性などが挙げられます。そして、平等と差別撤廃という人権の原則に基づいています。
- 2** 前述の対象者にとりわけ重点を置き、その他すべての関係者の積極的で有意義な参加を確実にします。プロジェクトの計画・意思決定・モニタリング・評価に、全員が力を尽くします。これは、すべての人が参加するという人権の原則に基づいています。
- 3** プログラムの受益者や参加者が自分たちの権利を知り、権利を主張できるよう能力を育成します。参加者の知識・技能を開発することで、プロジェクトを通してリーダーシップやアドボカシー活動の変革をもたらす力を支援し、向上させます。
- 4** 人権を守るため、国や地方政府、サービスの提供者との協働や対話を通して、それによって権利保有者と義務履行者の関係を築き、支援します。この関係構築によって、社会の片隅に追いやられた人々が、自分たちの権利が確実に尊重されるよう声を上げやすくなります。YWCA の場合、義務履行者は、宗教指導者や両親等の意思決定者であることもあります。権利保有者と義務履行者のつながりを築くことは、説明責任の人権原則です。
- 5** 差別的な政策、法律、文化的慣習の変革のためにアドボカシー活動を実施し、差別の根本原因を特定して有害な行動や規範を変革します。
- 6** 人権侵害や問題点、関連の条約を特定します。問題分析の内容には、プロジェクトやプログラム策定の手引きとなるよう、浮かび上がった課題を CEDAW(女性差別撤廃条約)や子どもの人権条約、安保理決議 1325 号(UNSCR1325)のような国際的な人権基準と関連付けることなどがあります。
- 7** パートナーシップは HRBA の鍵です。他の団体や人権の擁護者と協働することにより、人権の本質を認識するとともに、持続可能なプロジェクトを創出します。

# 地域とつながる

## 「変革への力基金」 生き方を変え、コミュニティを構築する

1 999年、世界中のYWCAの女性たちは女性と少女のリーダーシップ養成のための資金と機会を拡大するという夢を持ちました。この夢は2007年に1,000万USドルの寄付と更にさまざまなプログラムに対する500万USドルの寄付が集まり「変革への力基金」として実現しました。「変革への力基金」はYWCA運動の継続性と能力開発を促進するために企画された運動構築ツールです。エチオピア、ソロモン諸島、レバノン、トリニダード＝トバゴ、アルゼンチンからアルバニアまで、この基金によって世界中で女性たちの人生や彼女たちのコミュニティに変化がもたらされたばかりでなく、YWCA運動が一層強化されています。

「変革への力基金」は、各地域のYWCAが主導する取り組みを支援するとともに、YWCA運動の結集した力や専門知識を利用するための世界規模および地域レベルのリーダーシップに関する取り組みに貢献してきました。「変革への力基金」は二つの目的のために恒久基金を設けました。世界中の女性と少女のリーダーシップ養成のために継続的収入を生み出す目的と、女性がすべての分野に対応できるようYWCAの研修や開発プログラムで得た知識とスキルを確実に身に付け、今後何世代にもわたり女性のリーダーシップの持続性を強化する目的です。

「変革への力基金」は、途上国のYWCAが優先的に利用できますが、すべてのYWCAに開かれています。この基金は、人権に基づく開発を促進し、二つの立場からYWCA会員に取り組むよう求めています。一つは、女性と少女が自らの権利を主張できるように

なることです。もう一つは、これらの権利を守るために責任を確実に果たすよう政府に要求することです。世界YWCAは会員への能力開発と技術支援を促進します。私たちが持つ人権とジェンダーの専門チームを駆使して、プロジェクトがうまく実施され、適切な組織運営と説明責任の基準を確実に満たすことができるよう支援します。

これらはすべて、世界YWCA計画と方策の枠組みとプログラムの優先課題を通し多様性を持ちつつ団結しているYWCA運動がより強固で持続可能なものになることにつながっています。

「変革への力基金」は、世界YWCAの優先課題に関連しているプロジェクトに積極的に資金提供しますが、それとともに、各地のYWCA主導の優先課題への枠を用意し、新しい取り組みと長期的な取り組みを取り混ぜて支援します。プロジェクトには、HIVとともに生きる人々への在宅介護、危機的な状況にある女性への支援、女性器切除に対する取り組み、包括的性教育の提供、女性への暴力の根本原因に対する取り組みなど、さまざまなものがあります。

複数の資金提供源を持つ「変革への力基金」は柔軟で利用しやすいものですが、最大限の効果を得るために戦略的なものでもあります。「変革への力基金」の助成金とリーダーシップ研修の収入源は、「リーダーシップ恒久基金」を元手に毎年得られる投資収益が含まれます。さまざまな「変革への力基金」プロジェクトへの追加支援は、協力団体や個人の寄付によるものです。世界YWCAは以下のような「変革への力基金」を支えてくださる多くの協力団体や個人の寄付者の皆様、そして「リーダーシップ恒久基金」の創設に

貢献してくださった皆様に心より感謝申し上げます。

①デイビッド&ルシール・パッカー財団ーアメリカ

②EED(ドイツ教会開発サービス)(ドイツ)

③世界祈禱日ドイツ委員会

④ホライゾン(スイス)

⑤ノルウェー・チャーチ・エイド

⑥アメリカ YWCA 世界奉仕委員会

## 会員増加プロジェクト

ベウラ・アロティ(アイルランド YWCA 運営委員)へのインタビュー

**ア**イルランド YWCA は、あらゆる年代、さまざまな背景そして宗派を超えて共に歩む女性団体です。1876年に創立したアイルランド YWCA は、世界最古の YWCA の一つです。アイルランド YWCA の目指すものや活動に関して創造的に考えた結果、「会員制度」がアイルランド YWCA の最も重要な開発分野であることが分かりました。アイルランド YWCA は、2013-2017 計画と方策の枠組みが正式に開始した直後に「会員増加プロジェクト」(MGP)に参加しました。これは、アイルランド YWCA にとって組織化された協力的な環境の中で会員増加への取り組みを考える絶好の機会となりました。

### 会員増加プロジェクト(MGP)とは？

MGPはヨーロッパ若者フォーラムによって設立された取り組みです。このプロジェクトには次の4団体—世界YWCA/アイルランドYWCA, ACTIVE/NOM スロバキア、AEGEE (Association des Etats Généraux des Etudiants de l'Europe / European Students' Forum) /AEGEE ブラスチラバ、YEU (Youth for Exchange and Understanding) /NAK (New Apostolic Church)が参加しています。プロジェクトの目的は二つあります。一つは構成団体や会員とともに新しい会員を惹きつける方法を考えるだけでなく、新会員やボランティア獲得へのアプローチの向上を目指す2カ年プロジェクトを立ち上げること、もう一つは会員の質を向上させることです。

### アイルランド YWCA にとって、MGP はどのような利点がありましたか？

他の構成団体から体験や課題を学ぶことは有益です。また18カ月におよぶMGP実施中、ヨーロッパの他団体と意義深い協力関係を築く機会を得ました。MGPから受けた主な恵みの一つは、会員増加行動計画の開発と実施においてMGP参加団体に対してヨーロッパ若者フォーラムから非常に協力的な支援を得たことです。MGP継続期間を通してさまざまなアドバイスや専門知識へのアクセスが得られたことは貴重な資産です。行動計画およびMGPの観察段階から引き出された情報の助けを得て、アイルランド YWCA は今、ヨーロッパ若者フォーラムとMGP参加団体によって開発された多くの会員増加ツールを利用することができます。

### MGP 参加における最大の収穫は何ですか？

MGPの最大の収穫は、アイルランド YWCA の主要メッセージを自分たちで作ることができたことです。会員はアイルランド YWCA の使命とビジョンの中心です。そして活動の中で私たちの価値を具体化し、ボランティア活動、代議制度、祈り、奨励、ファンドレイジングなどを通して私たちを支えています。一つの組織として私たちは今、私たちが何者か、そして何をするのかを明確に伝えることができるようになったと感じています。今日、私はアイルランド YWCA がますます力強く成長しているのが分かります。MGPは私たちに会員制度の課題について考え、将来における効果的で持続可能な会員増加計画を立ち上げる絶好の機会を与えてくれました。

## 信頼性を高めるレバノン YWCA



レバノンではここ数十年の間に、ジェンダーに基づく暴力 (Gender Based Violence, GBV) に対するさまざまな取り組みの強化が見られました。2010年、これらの努力は、法律が飛躍的に進歩したことで報われました。閣僚会議が「家庭内暴力からの女性保護法」を承認し、国会の最終的な承認を得るために、この法案を国会の「女性と子ども委員会」に委ねたからです。非暴力運動に最も積極的なレバノン YWCA は、この国の女性と子どものための最も古いボランティア運動体ですが、2004年に暴力からのサバイバーのためのシェルターを建設しました。その目的は虐待された女性と子どもを援助し、生活の中の暴力のサイクルを彼女たち自身と家

族のために断ち切ることです。何年にもわたる暴力反対の大規模なキャンペーン活動を基盤として、レバノン YWCA は、2012年6月から「暴力のないコミュニティ・プロジェクト」を実施してきました。このプロジェクトは「変革への力基金」の支援を受けており、次の5つの目標を掲げています。

1. 女性を虐待から守る。
2. 若い男性や女性を結集して GBV に反対する。
3. 虐待からのサバイバーを安全な場所で支援できるように、ボランティアを組織し、研修する。
4. リーダーとなり変革の担い手となるよう若い女性をエンパワーする。

5. 農山漁村出身の高齢の女性に社会的支援を提供する。

1998年にスタートした意識向上キャンペーンは、女性と子どものためのシェルター創設に結びつきました。レバノンでは最初かつ唯一のもので、この大規模なキャンペーンと「変革への力基金」によって、レバノン YWCA は他の協力団体や活動が実施されたコミュニティから信頼を得ると共に、さらなる資金も得ることが出来ました。「変革への力基金」はレバノン YWCA が活動を開始するための財政基盤となり、前進と発展のために必要な信頼性も与えてくれました。時を置

かずにレバノン YWCA への信望は高まり、同時に外部の財源からさらなる資金も寄せられました。そして、最初に「変革への力基金」から得た金額を、なんと 3 倍に増やしたのです！

現在、レバノン YWCA の運営は順調で、レバノンの社会省や教育省とパートナーシップを結んで活動しています。他の多くの地元 NGO が資金を調査や出版物に使っていますが、レバノン YWCA は実際にアクションを起こすことに重点を置いています。結果、YWCA が活動しているコミュニティが恩恵を受けているのです。

## 太平洋地域若い女性のリーダーシップ連合

“一握りの思慮深い人々が集まれば、世界を変えることができる。これまでも、世界はそうやって変わってきたのだから。”マーガレット・ミード<sup>8</sup>



2009年インドネシアで開催された世界YWCA地域研修会において、アジア太平洋地域のYWCAから参加した数人の若い女性が次のように提言しました。「性と生殖に関する健康と権利や女性に対する暴力について、仲間やコミュニティに対して行う教育に関して、若い女性はもっと先んじた役割を果たすべきです」。この提言は、アジア太平洋地域全体の多くの活動に刺激を与えました。ほどなく世界YWCA・UNFPA（国連人口基金）・オーストラリア外務貿易省（DFAT）の三者の協力により、35人の若い女性のための研修が行われました。

若い女性からの支援の要請が増え、かつ、より集中的になったため、世界YWCAは資金提供者との話し合いを続けました。2011年、世界YWCAは地域全体の若い女性のリーダーシップ能力育成を目指す「太平洋地域計画」の開発に不可欠な役割を果たしました。このプロジェクトでは、太平洋地域の6カ国から参加した250人以上の若い女性による参加型の協議が企画・実行されました。またソロモン諸島とフィジーから参加したプロジェクトのレファレンス・グループ<sup>9</sup>に

よる2日間にわたる二つの「戦略的立案計画ワークショップ」も支援を受けました。

「太平洋地域若い女性のリーダーシップ計画」（Pacific Young Women's Leadership Strategy）が成功の内にスタートした後、次のような団体の代表によるプロジェクトのレファレンス・グループが再び集まり、計画で述べられた重要分野をどのように進めていくかについて話し合いました。これらの団体とは、世界YWCA、太平洋地域各国YWCA、FemLINK Pacific、UNFPA（国連人口基金）、UNICEF（ユニセフ）、フィジー女性の権利運動、太平洋地域若者会議です。こうした取り組みの一つが、選ばれた10の地域団体の代表による「太平洋地域若い女性のリーダーシップ連合」（PYWLA）の設立です。これらの団体は、太平洋地域の若い女性のリーダーシップが確実に地域の意思決定者の協議事項にあがるよう尽力しました。

今日では、太平洋地域若い女性のリーダーシップ連合は、若い女性リーダーの確立されたネットワーク基盤となっており、太平洋地域の若い女性に影響を及ぼしている諸問題について代弁しています。

<sup>8</sup> アメリカの人類学者（1901年～1978年）

<sup>9</sup> 個人が意思決定をするときに、その人物の価値観や信念だけでなく、別の要因として拠り所となる影響を与える社会的な集団。準拠集団の意。

「太平洋地域若い女性のリーダーシップ連合」は次の5つの重要な活動分野に力を入れています。若い女性と少女が、確実に

・その安全が守られ、平和と安全に関する問題にかかわれること。

・尊重され、かつ、自らの文化に誇りを持つこと。

・重要な話し合いに参加できること。

・結束し、特に世代間の対話とメンタリングを通してスキルを共有できること。

・教育、研修、そして意義のある仕事や活動にアクセスできること。

これまでに、太平洋地域若い女性のリーダーシッ

プ連合のメンバーは、次のような多くの重要な国連のイベントや地域のイベントで意見を述べてきました。

- 第12回太平洋女性トリエンナーレおよび第5回女性大臣会議
- 人口開発会議
- 女性の地位委員会
- 島嶼開発途上国会議
- その他多数の地域イベント

主要な団体が参加したこの協働の取り組みは、アドボカシー活動と資源の結集を共に行うことで、より大きな力と変革が生まれることを証明しています。

# 世界とつながる

## 運動の構築と国際的な課題の策定

マルシア・バナスコ

世界 YWCA コミュニケーション担当



若い女性が抱えるさまざまな課題を潘基文国連事務総長に伝えるマルシア・バナスコ

**世**界 YWCA は、女性の知識とスキルを向上させ、アドボカシー活動に参加させて国際的な課題について発言の場を与えるなど、女性と若い女性を支援し彼女たちに投資しています。

世界 YWCA は、少女と若い女性を含むすべての女性の権利推進を目指す「世界 YWCA 計画と方策の枠組み」に沿って、さまざまなアドボカシー活動の場にかかわっています。また、「計画と方針の枠組み」の一環として、運動強化と加盟 YWCA の支援にも重点を置いています。「計画と方針の枠組み」の目標 3 は、「世界 YWCA 運動は、女性と少女のリーダーシップ養成の目的を効果的に実現し、またその最高機関として、説明責任を果たす役割を有する」です。女性と若

い女性のリーダーシップ能力を継続して養成する方法のひとつが、YWCA アドボカシー研修および国連会議や委員会などの国際舞台への参加です。

世界 YWCA によるアドボカシー研修は、2014 年だけでもすでに、アフリカ連合サミット、国連女性の地位委員会、国連人権理事会、国連人口開発委員会などの国際舞台に合わせて実施されています。世界各地から YWCA スタッフ・メンバー・ボランティアが、各国 YWCA およびより広範な YWCA 運動を代表して NGO 代表団に加わり、こうしたさまざまな会議に参加しました。これらの積極的な取り組みすべてが、運動構築に直接貢献することになるでしょう。そして実際、それ自体が運動構築なのです。

## その方法とは？

アドボカシー研修やこうした国際的なアドボカシー活動の場に参加することの内に、(運動を構築するための)3つの要素が明らかにされていると思います。重要なのはまず、こうした会議は、少女と若い女性を含むすべての女性の生活に直接影響を与える決議が行われる場である、と認識することです。世界の指導者・政治家・大臣が一堂に会し、健康・教育・ジェンダーの平等・性と生殖に関する健康と権利・HIVとAIDS・気候変動・農業・貿易・紛争・人権侵害といった各国および世界にとって重要な問題を話し合います。NGOや市民社会も参加して、決議に影響を与えるために政府へのロビー活動を行ったり、他の団体や世界の指導者とネットワークを構築したりすることができます。その結果、私たちがNGOとして参加する理由がなんなのか、またどのように参加したらいいのかが明確になります。では、運動を構築するための3つの要素について詳しく説明します。

### 1. 知識とスキルの向上

代表団は、会議や委員会と並行して開催されるさまざまなサイド・イベントやワークショップに参加することができるので、討議される課題についてより深く理解できるようになります。また、他国の現状や私たちを取り巻く世界の地政学<sup>10</sup>についても、より包括的に国際的な視点を身につけることができます。さらに、参加者間で知識を交換するので、パートナーシップに向けて基礎を築くことができます。アドボカシー研修を通して、参加者は、交渉力・ロビー活動・プレゼンテーション・コミュニケーションなどのスキルを向上させたり、身に付けたりすることができます。そして、参加者はこれらのスキルや経験を所属するYWCAやメンバーに伝え、伝えられた人が、コミュニティを変革できる人を育てられるようにします。

<sup>10</sup> 地理的な位置関係が政治、国際関係に与える影響を研究する学問

### 2. 連帯、パートナーシップ、ネットワーク構築

代表団は、専門家としても一人としても、さまざまな個人や団体と(通常、非常に長期的にわたる)関係を築きます。こうした関係は、協働プロジェクトや地域を超えたキャンペーン、スキルや情報の共有、加盟YWCA間のより強い連帯などに発展させることができます。連帯することで他の人々の状況をより深く理解できるようになり、強い結束力が生まれます。その結果、YWCAの多様性にもかかわらず、私たちは計画と方策の枠組みと優先課題に基づいて団結し続け、YWCA運動はより強力になります。

### 3. 世界YWCAの存在価値と認知度の向上

こうした国際舞台に積極的に参加することで、主要関係者、特にNGO、エキュメニカル・パートナー、資金提供者、国連機関の間で、女性の権利のためにアドボカシー活動を行う団体としての世界YWCAの認知度が高まります。さらに、ソーシャルメディアやコミュニケーション活動を通して、こうした国際的なアドボカシー活動の場が、自分たちの活動といかに関連しているのかということ、YWCAメンバーはより深く認識できるようになります。

私は幸運にも、世界YWCAを通じて、さまざまなアドボカシー研修や国際舞台に若い女性として参加することができました。振り返れば、運動を構築するための3つの要素の成果と方法の両方を目撃し、体験してきました。ポスト2015年開発アジェンダの策定期間である今こそ、各加盟YWCAに国際的な場への参加を求めます。

# 権利を主張する若い女性たち

## 運動を強化する世代間でのリーダーシップの分かち合い

このたび行われたアジアリーダーシップ研修「彼女の未来：変革をもたらす大胆なリーダーシップへの世代を超えたアプローチ」には、若い女性・女性・メンター・意思決定者など 35 人が参加し、リーダーシップの共有を大切に、支持し、実践するとはどういうことなのかを考えました。さまざまな世代が 5 日間にわたって互いに手紙を書くことで、話し合いは大きな盛り上がりを見せ、リーダーシップの分かち合いに関する素晴らしい声明を、全員で力を合わせて作成しました。現在、世界 YWCA 運動は「2035 年に向けたビジョン構築(Envisioning 2035)」のプロセスを通して、YWCA の集団としての影響力とアイデンティティ(存在意義、YWCA が YWCA であることの価値)について考えています。今回のグループ作業は、私たちが熱烈に求め、価値を置いているリーダーシップとは何かを深く考える絶好の機会となり、世界各地の YWCA 運動に話し合いをもたらすでしょう。



抜粋:若い女性からの手紙

私たちを守ってください、でも押さえつけないでください。一緒に涙を流してください、でも憐れみはいりません。教え導いてください、でも決めつけないでください。仲間に入れてください。子ども扱いしないでください。失敗する場をください。話を聞いてください。信頼してください。尊重してください。私たちに投資してください。

抜粋:年長の女性からの手紙

YWCA 創設以来、私たちは世代を超えたパートナーシップを目指してきました。まだ失敗はありますが、みなさんの助けと支援、指導によって、リーダーシップの分かち合いに全力で取り組みます。私たちと一緒に歩き、笑い、泣き、活動しましょう。皆さんから学び、皆さんと共に学ぶことを約束します。私たちの運動はすべての年代の女性の知恵と視点を必要としています。お互いに耳を傾け合い、信頼し合い、尊重し合い、認め合いましょう。全員で力を合わせて、若い女性のリーダーシップを推進しましょう。

## リーダーシップの分かち合いに関する声明(抜粋)

YWCA は長い歴史を持つ団体で、初期の時代から、シニア女性の経験と尽力に支えられて若い女性のリーダーシップの推進と育成に焦点を置き、世代を超えて活動を続けてきました。アドボカシー活動をする若い女性リーダーの獲得と能力開発に集中的に投資することは、各 YWCA の持続と、コミュニティの中で女性や若い女性や少女のために活動する YWCA の力にとって、欠くことのできないものです。

「リーダー」という言葉を誤って解釈してはなりません。なぜなら、私たちは「リーダー」という言葉を責任者や階層的上位者または部署の長などの意味で使わないからです。運動の中においては、特定の、または日常の仕事や職務を行う時にすべての人が役割を担うことを私たちは期待しています。リーダーシップとは、例えば方向付けをすること、コミットメントを創造し継続すること、課題に柔軟に対応することなどです。私たちは、チームの一員として、または責任者という立場で、これらの仕事を遂行します。

私たちの運動において、世代を超えたリーダーシップの強化を呼びかけることは、決して新しいことではありません。それは 1898 年の第一回世界総会における総幹事の報告で述べられており、地域・国・国際レベルの YWCA において、それ以来常に継続した課題であり、努力が続けられていることなのです。

世代間でリーダーシップを分かち合うという私たちの目標を実現するためには、若い世代が直面する変化や課題に、YWCA の組織文化や活動方法が確実に対応できるようにする必要があります。これには、私たち一人ひとりが世代の壁を乗り越える能力を磨き、これが生涯続くものであると認識する必要があります。

これは時として非常に困難であることを、私たちは理解しなければなりません。リーダーシップを共有することは自分たちのリーダーシップを手放すことになり、これまでの YWCA への貢献が尊重されないと危惧する女性たちもいます。また、自分たちにはリーダーシップを伸ばし、発揮する機会が与えられないと感じる女性たちもいるのです。

世代間でリーダーシップを分かち合うことを学ぶためには、リーダーシップが個人の資質であると考えてのではなく、リーダーシップが共同で学習するプロセスであることを知る必要があります。私たちが目標とするのは、数人のリーダーが次の数人のリーダーに交代していく組織ではなく、リーダーに満ちた組織を育てていくことなのです。

これらの新しい活動の仕方は、次のようなことに基づくものです。尊敬しあい、互いに相手の力を引き出す対話。形だけではない、誠実で真剣な関わり合い。誰が力を持ち、機会へのアクセスを持っているのかを認識すること。これらの情報を確実に共有すること。重要事項に関して、世代を超えて話し合うこと。

この難題は皆で解決しなければなりません。私たち一人ひとりがスキルを学び、世代間でのリーダーシップの分かち合いを実践するために努力しなければなりません。

YWCA 運動の一環として、私たちは次のことに取り組むべきです。

- ナショナル YWCA の運営委員会のメンバーの 25%を若い女性にするという世界 YWCA の要求を満たし、すべての意思決定機関においても同様の基準を満たすために、各加盟 YWCA は方策を立てる。
- 世代を超えて歴史を共有し、リーダーシップを構築し、互いの関係を深める方法としてメンター制を引き続き推進する。
- 各加盟 YWCA は、世代を超えた話し合いや討論を通して、世代の壁を乗り越える能力を養成できる安全な場所となるよう努める。
- 女性たちの世代を超えた集団である YWCA が確実に再構築されるよう、新しい世代の獲得と養成に投資を続ける。

YWCA 創設以来、私たちは世代を超えたパートナーシップを目指してきました。まだ失敗はありますが、お互いの助けと支援と指導のもとにリーダーシップの分かち合いに努めています。私たちと共に歩き、笑い、涙を流しましょう。そして共に活動しましょう。私たちはお互いから学ぶ努力を惜しみません。私たちの運動にはあらゆる年齢の女性の知恵と視点が必要なのです。互いの声に耳を傾け、互いを信じ、尊敬し、認め合いましょう。全員で力を合わせて若い女性のリーダーシップを勝ち取りましょう。

この研修は、“Mobilising Young Women’s Leadership and Advocacy in Asia and Pacific project Phase 2 from 2013-2014 ”の一環としてオーストラリア外務貿易省の支援を受けたものです。

出典：ニャラザイ・ゲンボンズバンダ(世界 YWCA 総幹事)、*Cross-Generational Dialogue: Why is critical to movement building. Buwa! A Journal on African Women’s Experience*, Volume1, Issue2, 2011 年 9 月

アジア・太平洋地域リーダーシップ研修「彼女の未来：変革をもたらす大胆なリーダーシップへの世代を超えたアプローチ」(ヤンゴン、ミャンマー)にて出された、リーダーシップに関する声明(2014 年 6 月)

## 世界の若い女性の声：

### あなたにとって世代を超えたリーダーシップとは？

私にとって、世代を超えたリーダーシップとは、さまざまな世代による、誠実で双方向の豊かな対話を意味します。誠実であることによって、各年代のニーズと力を理解できるからです。双方向であることによって、経験と人生の教訓を共有することが可能になるからです。豊かな対話によって、成長し、スキルが向上し、自己肯定感が高まり、さまざまな年代の女性からなる意思決定の場において自主性を発揮できるようになるからです。世代を超えたリーダーシップとは、得意なことを共有し、躊躇なく他の人たちをエンパワーすることです。Silvia Gerbald アルゼンチン

良い指導者とは、共通の目標を達成するために強制するのではなく、影響を与える人です。世代間リーダーシップは、同じ行動計画に関わる異なる世代を受け入れます。従って、私にとって、世代を超えたリーダーシップとは、異なる年代を理解し共に活動するための能力であり、社交性、寛容性、経験、対話などのスキルを発揮する能力であり、教え学ぶための能力です。

Andrea M. Gradiz ホンジュラス YWCA



世代を超えたリーダーシップがあるところには、活動の中に活発な人間関係があります。それは、共通の目標の達成に向けて共に活動する、異なる世代の強さと能力を築き上げるために、パートナーシップ・メンター制・エンパワメント・互いから学ぶことに重点を置いた関係です。

Khalea Collender トリニダード トバゴ YWCA

これこそが、私たちの運動をとってもユニークで素晴らしいものになっています！異なる年代の人たちと共に、私たちの確固たる歴史と経験と長い旅について振り返ることができ、心に描く将来のYWCA像に、一歩ずつ近づくことが可能になるからです。その将来のYWCA像とは、対応力があり、大胆で、社会と関連性を持ち続けるものです。

Yasmin Jaghab パレスチナ YWCA

# 2015 年以降への展望

## 世界 YWCA 「貴重な宝」

ムシンビ・カニョロ

女性支援のための世界基金会長兼最高経営責任者  
回想記



**私**は 1998 年に総幹事として世界 YWCA の一員になりましたが、その時は世界の YWCA 運動がどれほど「貴重な宝」であるのか、あまりわかっていませんでした。世界 YWCA が驚くべき会員ネットワークを持ち、およそ 2 世紀にわたって成長し続けていることは、何世代にもわたって、組織としての回復力を持ち、常に社会との関連性を保っていたことを証明しています。

私は光栄にも、この偉大な運動の先頭に立ち、150 周年を祝い、また中国や東欧、およびエチオピア、モザンビーク、アンゴラなど、共産主義の影響を受けた国々を含むすべての元共産主義国が、メンバーに復帰する過程を見届けることができました。それは心躍る旅であり、私に大きな影響を与え、それまで想像しなかった私を形作りました。私はこの運動を率いる初めての途上国出身女性でした。総幹事を選ぶ人々の中には、この大規模で多様な運動を主導する能力を持つのは欧米の白人女性のみだと、なおも信じる人もおり、アフリカ出身ということで懸念を抱く人々がいたことは、記録すべき重要なことです。メンバーにすべての人を受け入れよ

うとさまざまな行動を起こした YWCA に、力強さを感じました。アメリカ YWCA は他に先駆けて人種問題に働きかけ、公民権運動に参加しました。また多くの YWCA では、キリスト教に根ざしながら、すべての女性に会員を広げ、宗教を持たない人や他宗教の女性たちがリーダーを担いました。東西冷戦の期間も、世界 YWCA は外面的な政治的緊張から運動を守ろうとしました。アフリカ人であることは私をひるませることはありませんでした。逆に力をもらい、ジュエル・グラハムやニタ・バローのような黒人で世界 YWCA の役員を務めた人々の活躍に支えられました。

私の夢は、これまで運動を支えてきた柔軟性と革新性に立脚し、世界 YWCA の新世紀を切り拓くために、YWCA 運動の強固な土台を築き、各加盟 YWCA とともに働くことでした。スタッフや役員会、友人やメンバーと綿密に協働すればこれは実現する、と固く信じました。世界 YWCA を持続させているのはプログラムや活動ではなく、ビジョンを受け渡す運動であるということに、早くから気づきました。運動が創造を繰り返し、存在意義を問い直すこと

で、運動自身が再生しながら、浮き沈みを乗り越えてきました。各国 YWCA や世界 YWCA のさまざまな歴史資料を読んで、いろいろな時代、つまり戦争・平和・宗教原理主義・文化革命・アパルトヘイト・人種差別・植民地主義・共産主義・資本主義などを、この運動がどのように克服してきたかということに驚き、感動しました。それはまさに驚くべきようなものです。YWCA 運動への思いは言葉では言い尽くせません。だからこそ、YWCA 運動を「特別に貴重な宝」と呼ぶのです。女性のリーダーシップの目覚ましい展開および世界の歴史における英知に、わずかでも貢献することを許されたことは、光栄かつ幸運であり、身が引き締まる思いです。私一人の力は限られているので、小さくても焦点を絞った課題を設定するよう、役員会に働きかけました。次の3点が重要なポイントでした。

1. 若い女性のメンバーとリーダーを増やし、将来を確保する
2. 会則改正および YWCA における適切な組織運営と説明責任の基準 (SGMA、2003) を通じて、ビジョンやミッションをより明確にする
3. 資金源や協力関係を多様にする

この3点が同時に実現されれば、より大きな結果が得られ、世界 YWCA と YWCA 運動は持続していくでしょう。

任期の10年間、私たちはこの重要課題に熱心に取り組み、成果を出しました。すべての YWCA の意思決定機関の25%以上を30歳以下とする方針が世界 YWCA 総会で承認され、若い女性の獲得に積極的に取り組み始めました。世界 YWCA ではより高い基準を設け、加盟 YWCA から世界 YWCA の会議に参加する際の経費を世界 YWCA が負担する場合、2名の内1名は必ず若い女性とすることにしました。世界 YWCA 事務局では若い女性の参加機会を増やし、若い女性からの情報を信頼する責

任を負っています。ミシェル・ベッグはコミュニケーション担当責任者として起用されたとき若干26歳でしたが、YWCA 全体のイメージに影響を与え、若い視点を加え、私のスピーチにも影響を与えました。2007年に私が離任するまでに、世界 YWCA 運営委員会の55%は若い女性が代表となりました。これはまさに画期的であり、成功です。

ビジョンの明確化については、「変革への力」キャンペーンがミッションをはっきりさせる手段になりました。ビジョンやミッションを明確にせず、キャンペーンは成り立ちません。多くの関係者と話し合い、到達したことは、女性のリーダーシップを促進するということでした。新しい会則のために懸命に取り組み、それに会員が投票しました。世界総会の投票に向けた作業の中で、加盟 YWCA の懸念を聞き、尊重するため、多くの会議が開かれました。それまでの論点をより明確にしたり、より強調したり、削除したりしました。世界 YWCA のキリスト教基盤がこれまで同様に確認されました。女性をエンパワーする場、会員のための場としての各加盟 YWCA についての記述がより詳しくなりました。メンバーの価値について深く学びました。新会員の獲得に努めなかった YWCA はうまくいかなくなり、NGO にありがちな資金不足による活動休止に至りかねない状況でした。お金がないときでも、YWCA では、メンバーが自分のスキル・資源・関わりによって運動に力を注ぎこむことがわかりました。メンバーは YWCA を去る時にも資源を遺し、自分たちのネットワークや家族や友人を紹介しています。

各 YWCA の資源は、情報基盤も資金も多様でした。世界 YWCA が使命を共有するいくつかの NGO と協働することで、会員のみには頼るのではない充足感を各加盟 YWCA に与えました。従来、世界 YWCA の活動の一部でありながら、充分ではな

った国連での活動を強化しました。他の主な NGO とともに説明責任基準を作り上げ、それを世界 YWCA に応用していきました。従来寄付者以外からも資金を募り始めました。民間財団や国連機関に資金提供を申請・受領し、教団教派を超えた寄付者の枠も広げました。「変革への力基金」を通じて大きな個人寄付の基盤をつくり、目標額 2500 万ドルの内 1500 万ドルを集めました。また「変革への力」キャンペーン以後も、キャンペーンで実施したすべてのプログラムの資金をまかないました。

世界 YWCA からどう身を引くかについては、非常に注意深く計画しました。自分の目標は達成しましたし、新しいリーダーに次のステップを任せ、運動が新たな一歩を踏み出す方がよいと思いました。

後継者引き継ぎ計画を立て、新しいリーダーを起用するための特別予算を役員会に設けました。役員会が私めきで行えるよう場を整え、後継者が選ばれました。2007 年の世界 YWCA ナイロビ総会では、HIV と共に生きる女性が 500 人以上参加するという歴史がつけられました。世界中の全地域から、あらゆる地位・職業の女性と男性が 2500 人以上世界総会に参加しましたが、この経費を支援するために、各地の YWCA で多くの資金が集められました。最も充実感を覚えたのは、このようによく準備し実行されたリーダーシップ継承を目撃した、すべての人々を前にした時でした。ニャラザイ・グンボンズバンダを迎え、世界 YWCA の伝統を継承するためにリーダーシップを受け渡すのは、心躍る瞬間でした。

# キャンペーン

## ポスト 2015 年開発アジェンダ 次は何をすべきでしょうか

**国**際社会がポスト 2015 年開発アジェンダの策定に向けて国連ミレニアム開発目標(MDGs)の進捗状況に関する協議や見直しに力を注いでいる現在、世界 YWCA は、こうした議論を社会的行動に変えていくことを要求します。この 10 年間、世界中のコミュニティで、加盟 YWCA・一人ひとりの会員・ボランティアの熱意を通して、YWCA 運動は、MDGs の達成のために全力で取り組んできました。「2012~2015 世界 YWCA 計画と方策の枠組み」と同様に、MDGs は、世界の大多数の国と、主要開発機関の合意を得た計画です。次は何をすべきでしょうか？

**悪名高き「ポスト 2015 年開発アジェンダ」という新たな世界的課題に、団体として、また個人として、私たちはどのように影響を与えられるのでしょうか？**

さらに、どうしたらこのような議論が確実に社会に働きかけるアクションとなり、少女・若い女性・女性の生活をよくする政策とその実施に結びつくのでしょうか。

意見交換は国レベルでも、地域レベルでも、地球レベル (<http://vote.myworld2015.org/en/> 参照) でも行われているので、参加することを強く求めます。たとえ経済的理由で参加することが難しくても、自分のネットワークの中で参加している人を見つけ、あなたの主張を伝えることが重要です。次に、意見交換の場として、多くの場合オンラインでの参加手段があるので、スマートフォン・ノートパソコン・PC などのインターネットにアクセスできるデバイス

から、ツイッター・Facebook・タンブラー・インスタグラムなどのソーシャルメディアにアクセスしてください。ソーシャルメディアを活用した効果的なロビー活動の一つは、ご自分が提言をしたいと思う問題の担当である政府大臣のツイッターをフォローすることです。例えば、性と生殖に関する健康と権利について提言がある場合は、保健担当大臣やジェンダー平等および家族問題担当大臣をフォローし、ツイートし、ご自分のツイッターにハッシュタグを付ければ、会話を始めることができます。

オンライン意見交換に関しては、国連のサイトにはそのような場がたくさんあります。例えば、MY World (私の世界) という調査は、人類史上で、世界最大の意見交換の場です。これは、世界中のリーダーたちが、新しい開発課題を明確にするにあたり、情報を得られるよう、人々の声、優先事項、見方を捕えることが目的の大規模な調査です。もう一度言います。MY World に参加して、あなたの意見を伝えましょう。最も優先順位が高いものを 1 とする 1 から 16 までの順位の中で、ジェンダー平等は、現在、優先事項の第 10 位です。ジェンダー平等の順位をさらに上げるには、皆様の強力な後押しが必要です。世界 YWCA は、変化をもたらすために、この記事をお読みの皆さまのような、ジェンダー平等に熱心な人々を必要としています。全員が MY World に参加して、少女・若い女性・女性がポスト 2015 年アジェンダの中心課題となるようにしましょう。

## MY World のアドレス

<http://vote.myworld2015.org/en>

### 意見を交換し、グループでの話し合いもしたら、次は何をするべきでしょうか？

社会的行動です。単なる意見交換にとどまらず、すべての段階で意味のある参加をすることが不可欠です。開発アジェンダは、定義され、計画され、それから実施されるものです。だからこそ、少女・若い女性・女性の声が確実に反映されるよう、計画段階において要望をより具体的にし、意思決定の場においてもっと積極的になるべきです。次に、私たちは、コミュニティプロジェクト・キャンペーン・アドボカシー活動・学校外教育プログラムを通じて、真の意味でのエンパワメント達成のために、解決策が人権及び開発に根差したものであるよう、注意深く要求しなければいけません。

新しい開発アジェンダは間近に迫っています。運動や地域を超えて結集することの大切さを考えると、若い人々は、ポスト 2015 年開発アジェンダに向けてリーダーシップを取る大切な役割を担っていると言えます。この 2 年間、YWCA を含む青年団体や連合体は、さまざまな協議や、国連での会議や報告の場を通してポスト 2015 開発アジェンダに関わってきました。特に国内でのアドボカシー活動を通してポスト 2015 開発アジェンダにおける HIV 及び性と生殖に関する健康と権利の推進に熱心な若い人たちのための実用的なツールキットが、このような連合体により、開発されてきました。さまざまなアドボカシー活動に応用できる、とても有益なツールキット(手引書など活動に使うための道具一式)です。

### ダウンロードはこちらから

<http://www.unaids.org/en/resources/documents/2014/name.94374.en.asp>

待っていてはいけません。声を届けましょう！

表紙写真:カレア・カレンダー  
(2014年世界YWCAインターン、コミュニケーション担当)

**コモン・コンサーン 日本語版 152号 2015年9月**

---

翻訳協力 日本YWCA コモン・コンサーン翻訳グループ  
浅原由美・加藤美恵子・黒木聖司・古賀佳子  
芝田貞子・林加奈・宮坂浩美  
山高万寿子・吉田亜希

編集・発行 日本YWCA 2015年9月  
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11  
東京YWCA 会館 302号室  
TEL:03-3292-6121 FAX:03-3292-6122  
E-mail:office-japan@ywca.or.jp

---

